

Personal Effects No. 24 '87.10

故夫澁澤龍彦儀告別式に際しましてはご多用中にも  
拘わらず遠路態々ご会葬下され且つご鄭重なるご厚  
志を賜わりご芳情のほど誠に有難く厚く御礼申し上  
げます  
早速参上ご挨拶申し上ぐべきところ略儀ながら書中  
をもつて御礼申し上げます

昭和六十二年八月七日

喪主 澁澤 龍子  
外親 澁澤 一子

8月いっぱい半年勤めたレコード屋を辞めたが、即座に次の就職先を決めました。ことで2週間の夏休みを取った気分がする。大体において辞めた会社の悪口はつぎものようだが、たぶんまともな職種では経験できないだろうひどいといえあまりに下劣な例だと思つて声を大に言いたいのだが、仕事上の他人の悪口程度がされて不快な話はないので書かないことにする。どうしても聞きたいという人はその旨伝えて下さればたぶん半日は喋ります。辞めた日の前後に無理矢理聞かされた人、ごめんなさい。その会社の仕事を8月に山形へ出張中、渋澤龍彦の訃報を受ける(1日前の新聞で)。渋澤がそう長くはないことは分かってた。しかしこんなに急だとは……。いづれお金を集めて集成を買うつもりでいた。このことで値上りしては困る。「いやあ、値上りすることはないよ。それにこじめああんまり売れないしねえ」(山形市内積文堂の御主人。山形ニキイで共に仕事をやってた。60歳くらい)談。「スーパー・デパートで仕事をやり始めたときは、うちに全然在庫無くてねえ、自分の本出しましたよ。渋澤の集成なんか2,000で出したらずで売れちゃった」(以前山形ダイレで共に仕事をやった。山形自由公論社社長前川任氏。元東京でジャズドラマー。ジョージ・オツカなんかとバンドを組んでいた35歳。談)高円寺に帰ってきて、古本屋を巡ってみた。渋澤の本は皆一様に高い。1年くらい前までは見た集成全七巻はどこにも見当たらない。やがて古本屋には高価な渋澤龍彦が並び、活字で見ることができるとは当用漢字の渋澤竜彦ばかりになってほうのか。「(値上りしているのは)以前からです。そんなったということで急に高くなることはないでしょうが、そういった傾向に拍車がかかるのは確かでしょうね。」(高円寺駅前 球陽書房 店番氏 談)山形では渋澤のことを夢に見ていた。帰ってきて「種の渦」のベジスト原雅明に僕にとっては(渋澤は)作家としてよりアイドルだった。深沢七郎が死んでも夢に出ることはないだろう、というようなことを喋って数日後、本当に深沢七郎が逝ってしまつた。夢には出てこなかった。驚ろきもほとんど無かった。僕にとって深沢は作家としてあった。渋澤の死がこちら側に生々しく届いたとすれば深沢の死はよりオゾエ的にやって来た(人によっては逆かもしれないが)。静かな死だつたと思う。その意味で両者の死に対するイメージはその作品により決まっていたのかも知れない。それより少し前、ロリータ順子の死を知ったときは、どう受けとめてよいかまるで分からなかつたものだった。

PS. 無事新宿のロウ・ビデオ屋に再就職しました。店内ではスラッシュ・メタルがガーンガーン鳴っています。



☆8/12、ザ・ストライクス、ザ・コレクターズ、ザ・ファントムギフトのライブ[芝浦インクステック]。モロに初期ビートルズ風のストライクス[へたにオリジナルをやるより、カバーに徹したほうがいいと思った]、モッズ丸出しのコレクターズ[前向きの明るい歌詞が白々しい]の2つは、GSじゃねえな。そんなに健康的でどーすんの。やっぱり僕は驕りのあるファントムギフトに引かれる。9/18の伊勢丹屋上でのライブ、9/21のシングル・10/21のLP発売も楽しみ。

☆8/15、須山さんのライブ[吉祥寺曼荼羅Ⅱ]。いつも演る曲のアレンジに工夫がみられた。バックギグ[清水一登+近藤達郎]はすっかり板に着いてる感じ。

☆8/18、4年ぶりぐらいでムセーして目を覚ます。原因不明。気持ち良いがアチャーという感じ。夢の内容は失念。

☆8/21、やっと「ゆきゆきて神軍」を観る[ユーロスペース]。福本さんたちが持ってたパンフ?はもう無かったが、代わりに「製作ノート+採録シナリオ」[話の特集発行]を買う。一部「イメージフォーラム」誌に掲載されたものだが、製作過程での葛藤、撮影チャンスを逸したシーンの数々、フィルムが没収されて観ることのできないニューギニアでの出来事の報告等、映画と併読すれば絶対面白い。これを読むと、一徹なようでもあり矛盾の固まりのようでもある奥崎のトンデモナサが、映像には十分現れていないという気がする。原監督はどうしても物語志向を捨てられなかったみたい。でも、観る価値ある映画ではある。山田吉太郎元軍曹はビートたけしに似ている。

☆8/22、ようやく9月初めに渡仏が決まった大里俊晴氏の送別会[園田佐登志宅]。小山ヒロヒト氏、嘉陽氏、ヤタスミ氏、鈴木健雄氏らお馴染みの面々のほか、高橋さん、織田さん、松本氏といった珍しい人も含め15人ほど参加。饞別にB級GSのベスト編集テープを贈呈する。

☆8/23、東京都青少年センターで遺産相続人と種の渦のジョイント公開練習? 両バンドとも会場、機材の調達、運搬に苦勞しているようだ。みんなビンボのせいね。良いバンドなんだが。帰途、高円寺「抱瓶」。

☆8/26、明日仕事先でセットした検診があるので今夜は何も飲み食いできないのだが、帰宅後ヤタスミ氏が立ち寄り、勧められるままについビールを1/2本ほど飲んでしまう。ヤタスミ氏体調悪そう。「新トワイライトゾーンVol.2」、「ファンタージェン」のビデオを借りて観る。前者は、Vol.1に較べるとやや落ちるが、ベトナム後遺症の根深さを窺わせるハヴィな第3話[監督ウィリアム・フリードキン]と、白日夢の描写で結構見せる完全犯罪ものの第6話[監督ジョン・ミリアス]が良い。毎回こうしたカネを時間をたっぷりかけたテレビ番組が観れるという点

においては米国人が羨ましい。後者は巷で話題のKYON<sup>2</sup>の独逸ロケ。国産音楽ビデオにしては手間暇かけた映像のお遊びが楽しめる。内容は他愛無いし、散りばめられたアイデアの殆どはどこかで見たものの二番煎じだし、歌は進歩の跡がみられるものの歌詞が聴き取りにくいという問題があるが、とにかく可愛いきゃ許すの世界ね。

☆8/27、午前中は東京船員病院で検診。尿・身長・体重・血液・血圧・胸部X線・消化器X線[マックシェイクみたいなバリウムを飲まされる]・心電図。1年ぶり。帰途「イッセー尾形の都市生活カタログ1」と「水平線のマーメイド」[オナッターズ]を借りる。イッセー尾形はいつ観てもすげえ。このビデオではバーテンの演技が◎。オナッターズはテレビ以上に白痴的で呆れ返る[まあ、いいけどさ]。こんなもんでも買う人いるんだろうか。

☆8/29、荻窪中央図書館からの帰途、南口駅前の古本屋で「帝都物語」第1巻～第7巻セットを発見。全10巻完結を機会にちょうど読んでみたいと思っていたところに加え、¥2,500は安いので買う。「ピーターパン」に鞆を修理に出して帰宅。ネオGSコンサートのとき答えたアンケートに当選したらしく、Tシャツが届いてる。普段クジ運が悪いだけに嬉しい。「帝都物語」2巻目の途中でコウイチロウ+鈴木くんから雷でお誘い。「一休」で少し飲む[一休デー：生ビール1杯¥190]。2人は名古屋でのライブの帰り。割に受けたものの落ち込んだとのこと。

☆8/30、池袋「サンレコ社」で中古盤バーゲン。たいしたものは無かったが、1枚¥100の安さに引かれ8枚買う。「帝都物語」をむさぼり読む[第8巻～第10巻も買い足したが、日付失念。並行して「神秘学カタログ」を読み始める]。

☆9/1、検診の結果が届く。胃潰瘍の疑いありとのことで、9/9に再検査を受けることになる。初めてのこと[トホホ]。でも、ほかには異常なし。1年前に比べて身長が9mm伸び[?]、体重が4.8kg減っていた。帰宅すると、大谷氏から「ヴァイアン通信Vol.6」が届いている。乙部作品評を巡って論争[?]。死語が飛び交う。「收拾のつかない事態」の進行結構、「スムーズな展開」がなされなくたっていいからどんどんやればいいと、私のヤジ馬精神。だが、参加する気は起きず。

☆9/4、今日から遅い夏休み。18:42発のひかりで2年ぶりに広島・ゴウちゃんの実家へ。車中で「帝都物語」第10巻を読了。23:20着。増築された2階で義兄夫妻+2歳の甥がニューファミリーしている。結構な住まいであるが、誰の家であれ実家は居心地悪い。

☆9/5、義兄の車でドライブ。山口県玖波郡の農家形レストラン「山賊」[面白い]で昼食。後、宮島を観光。そこいら中に散らばる鹿の糞は実際黒豆みみたいだ。夜、



大塚氏に電。

☆9/6、己斐駅前喫茶店で大塚氏に会う。約2年ぶりか。療法を変えてから前よりは楽になったものの、腎臓移植しない限りは不自由な生活を余儀なくされることから、「50まで生きられたらいいけど……」などと気弱なことを言う。元気出してほしい。来年埼玉に引っ越す予定とのこと、再会を約して別れる。ヤセイに電したところ、不注意から子供が交通事故に遭いゴタゴタしている由。京都で会おうと思っていたが、今回は無理みたい。ほかにも会えない相手、数名。

☆9/7、午前中は義母も付き合い買物。ホテル「チューリッヒ」1階喫茶店で成田嬢[ゴウちゃんの旧友]に会う。14:08広島発のひかりで上洛、16:06着。「イノダ」ほかに寄ってからヨッコさん宅。「タヌ」の没後、新しい猫は「ドードー」と「小池さん」。どちらもまだ幼い。やや遅く仲子氏も登場、ニジマス肴に飲む。

☆9/8、14:00すぎヨッコさん宅を出る。京都時代以来10年以上放ったらかしにしていた三菱信託銀行の口座を解約しようと京都支店を訪ねるも、大変面倒な手続きが必要と分かり辟易。それでもせつかくの機会だから願います。結局、残高¥2,000余が戻ってくるのは1月以上先になりそう。京都駅前「アバンティ」でぶらぶらしてから、16:44京都発ひかりで東京へ。19:28着、20:00過ぎ帰宅。風の旅団からDM届いている。

☆9/9、午前中東京船員病院で胃部X線の精密検査。仕事帰り、荻窪「ピノキオ」で修理済みの鞆を受け取る。

☆えー、そういう訳で今回は日記風に行ってみました。「帝都物語」、もし読みたかったらまとめて貸しますよ。

☆ゴウちゃんが買った「リカちゃんの少女フシギ学」は面白かった。筆者の増淵宗一[ボン女の教授]はテレビでも観たことあるけど、必死に自分の研究は学問である、自分は決してロリコンではない、と強調するところがおかしい。この本もそうだが、井上章一の「霊柩車の誕生」[この人も自分は真面目だ、と一所懸命強調してておかしい]だとか、山根一眞の「変体少女文字の研究」だとか、「今まで誰もたいしたもんだと思ってなかったものの研究」ってのはこれからますます流行るような気がする。「路上観察学」なんかもその類でしょうが、この場合は軽薄短小なものから重厚長大なものまで相当幅がある。南伸坊が前者なら荒俣宏は当然後者って訳で、「異都発掘【新東京物語】」は「帝都物語」のネタも散見する異色の東京案内です。エナミミハシの「東京の正体！」との併読も一興。

☆倉光くんと僕のテープしかないのではなかなか新しいPSEがまとまらないです。

19870909 GESO



澁澤が死んだ。全く知らなかった。3日前、丁度乙部個展の初日に来てくれた知人に余分に持っていた集成中7巻をあげて、今また少しアームなのたというようにことを聞かされたが、最近はやと読んでなく手術したことも知らなかった。鎌倉での葬儀にファンの一として参列。予想された有名人の顔が多々見えた。種村の迷う言葉(良かった)が終わり、霊柩車が去って行った時には一瞬呆然とした。思えば澁澤の影響は大きかった。20歳まで平凡(というより無知でありなからう、屈していた)な学生であったのが、この頃好きになつた女の子から聞かされた名前、澁澤があった。わけもわからず読み始めたが、それはむかしうてあひなからうと親しみかもてた。自分はこんな世界が好きになつたのた、とやとわかった。それから彼の示す道をたどつて来たようなものた。ともかくもこの夜は家に帰つて葬儀でもらつた日本酒を飲み尽くす。その後図書館で新潮・文芸誌の追悼文にざつと目を通すか、地内紀の奇妙なエッセイが楽しめた。

以下 GESO氏と比較対照しなから日記風

8/2 同じく「インク」GESOくんは夕夕券もらつて行く。「フロント」が断然いい。なつかしきGSの香りかしてギターが格好いい。僕は音楽のよさというが楽しめ方がまたよくわからななし技術的なことは全くダメでずか。

8/15 11:00 港へかりで石島、水中翼船で松山着17:20。ヒコキなう1時半たか恐怖感はくさへものにならななし、丁度この日は高校のクラス会があるか出席せむ。18日まで一度家族でトウイフに旅行たわけに誰とも会わが家で飲み食い。(ちなみに僕は半年ほどムセーがある)

8/19 15:00 石島駅で乙部と会う。石島で夜8:30上映会のため、前座(?)として地元の2人の作品あり。最初めは保母さんの子供たちをたてて写してじ子だけのもの。客はこの保母さんの知り合いか多く、終わると「良かった」「美しかった」「素敵」etc 絶賛(上映後に読んだアンケートには「これで日本の将来に希望かもてる」なごという冗談のような(多分本気なのた)るう)ものまひあ、た)してほとんご帰、ていく。僕と乙部は陰で現在と乙部で将来まで嘆きなからうこれでもそのような客をたか乙部の映画を見たいで帰、てくれたことほ、とする。2人目は青春

ドラマもので言わすもがなの貧しい世界。終わって自己紹介をしながらの宴会は何故か吉田拓郎初期作品を思わせた。一人東京から今年、左島大に入学した人かいと風巻くんや乙部の名を知っていたということ。その時かけは少しなごんた。

20 午前中 宮島に行く。持っていた左島地図のピーを鹿に食やらかす。局食を食やようとするとレタスにうじ虫がついている。市内に戻ると時計をなくしていることに気がつくという思い出深い旅行となった。乙部は数日残って左島Pニメフススタイルを見るので、18:22発かりで東京へ。

21 誕生日といっても何もなし。

23 青少年センターに行くつもりだったが仕事かす時半頃終わらうしようかと迷っているうちに4時を過ぎ結局行かないという得意のパターン。

26 土方巽追悼2日目の笠井を見に行く。入場料5000円というチケ料金をもちがいにた、見に行く。笠井オリエントは暗黒舞踏から遠く離れてしまった。

28 発作はまたおさまらず石井満隆を見に行く。この日はオールスター的に出演者が多く、僕には笠井よりは楽しめたが暗黒舞踏が嫌いであざことを確信。

29 町屋に映画「母たち」完成記念試写会を見に行く。感想としてはドキュメンタリーのようにないようという中途半端なところの良いか悪いかという中途半端な感想です。大熊くんが来ると話しの中で昨日の石井でたま演奏していたとのこと。ウスイさんやっていたとのこと。長髪の人を見ることがあつた気がしていいけれどまたかぬ。ひろくり。それから霧田氏も来ていて軽くなごやかに話しておきました。「帝都物語」は図書館から借りて一巻目途中で挫折しています。

29 乙部の付合いで梅木まで能を見に行く。帰りの電車が8時を過ぎたので一時間に一本しかない。思えば遠くへ...

2 船橋西武へ「絵金展」。スプラッター好きです。この頃家にも「ウオワイアン通信」届く。上島羽(17カ)【ゆくんが書くこと思っていた言葉】のおかげでウオワイアン通信も面白くなった。反論書く気もあつたかどう書いてもまたお返ししかかるといふくり返しになりそうでもめる。











。高校生の時、古本屋に山積みしてあった「血と薔薇3号」を手にとってみたのがきっかけだった。

授業中にサドなどを読んだり、学生服のまま、ソノテの本を古本屋で買ったりしていきが、ていた。

殆ど恋に近い気分だった。その頃は、空飛ぶ風箏に龍という字が書いてあるだけでドキッとしたものだ。友人と二人で鎌倉のうちにこっそり訪ねてゆき、庭先に縞のパンツ(ブリーフにあらず)が干してあるのをしかと見届け、満足して帰っていった。なにしろ、本の折り返しに

載る写真などを見るとなかなかの美少年ぶりだったのだ。

実際に会ったのは2回。四谷シモンの人形展におかう途中の銀座の裏通りで、

片手にパイプを持ち片手に赤い薔薇の花束を持ち銀髪と肩で風切り傘をいっているところに

出くわした。その、オープニングの会場に何故か私もまじりこんで、噂にたがわぬ彼の

妙にかん高いしゃべりを楽しんだ。今一度は、知りあいに連れられ鎌倉のうちに

お邪魔した時。その少し前に何かで彼が白いバルキーセーターのことを書いていたので

私がそれを着てゆくと彼もそれを着ていた。……嬉しかった。印象に残っているのは、

たされたアインのおいさと、蹠踏のしゃべり、それに話の面白さ。「列車にとびこみ自殺をした

男の切断された足がその列車の窓を突き破り乗客を直撃し死に至らしめた」話に私が

グワグワ笑うと、笑いごとじゃないですよ、とマジメ半分と言う。「ピーナツの豆を割ると

その中から爺さん婆さんが出てくるのがあって、そうしたらそれを何とみなすとか、

「小さい頃、ペンツル様というのがあってそれをなでたら何としたことかみなみな」など、

その場にいた私以外の3人、浅澤夫妻と私のつれ、は、私には通じぬ古い話を

楽しげにしゃべっては、若い者いじめして楽しむ。ともあれ、こよなく素敵なお一夜だった。

その後、矢張り澄子の本を読んだりして、いささか彼の才気に感服したけれど。

。「文學界6月号」の「高丘親王航海記 最終回」を読むと、もう殆ど仏教の世界だ。

主人公の出家の際のエピソードは、ある禅僧のそれの換骨奪胎だし、主人公は捨身飼虎

して死んじゃうし……。そういう、その餓虎投身を描いた玉虫厨子に關する小説を彼は

書こうとしていたという。(昔、私の知人に玉虫厨子が好きな人がいて、彼女は三善英史のこの歌も

好きだった。雨に濡れるがらに死なぬ人がいる道中人が描いて見物するに恋は心の目も構はるものさし

いと耐えぬが定めと信じてる。窮極のマジメさね)とここでこの号に載っていた筒井の「原始人

は久々に面白かった)

。朝日、読売、サンケイ、東京新聞には、彼の死後追悼の文が載ったのに、毎日新聞にはついに載るが、

たことと業を煮やして、それまでとっていた毎日新聞にさえ、朝日新聞も1ヶ月と、とみると、

朝日はリベラルとかか漢然と思ひ込んでいたのかとんでもない向背の転変を知り、毎日よりは

朝日の方がずいぶん保守であり、天皇の記事も多く(彼は1000ccの血という話のたつたか?)

投書欄も人生訓的のものも多く、活字も読みやすく、読むところが少なく、広告が多く、……。